

水質汚濁に係る農薬登録保留基準の設定に関する資料

クミルロン

I. 評価対象農薬の概要

1. 物質概要

化学名	1 - (2 - クロロベンジル) - 3 - (1 - メチル - 1 - フェニルエチル) ウレア				
分子式	C <sub>17</sub> H <sub>19</sub> ClN <sub>2</sub> O	分子量	302.8	CAS NO.	99485-76-4
構造式					

2. 開発の経緯等

クミルロンは尿素系除草剤であり、作用機序は十分に解明されていないが、他の尿素系除草剤と同様に、雑草の根部の細胞分裂及び細胞伸長を阻害することにより、発芽抑制及び根伸長の阻害とこれに伴う生育抑制を生じさせ枯死させるものと考えられている。本邦での初回登録は1996年である。

製剤は粒剤及び水和剤が、適用作物は稲及び芝がある。

原体の輸入量は、35.9 t (19年度<sup>\*</sup>)、28.8 t (20年度)、31.6 t (21年度)であった。

<sup>\*</sup>年度は農薬年度（前年10月～当該年9月）、出典：農薬要覧・2010（（社）日本植物防疫協会）

3. 各種物性等

外観・臭気	白色粉末 無臭	土壌吸着係数	K <sub>r</sub> <sup>ads</sup> <sub>OC</sub> =500-940 (25℃)
密度	1.2 g/cm <sup>3</sup> (20.5℃)	オクタノール ／水分配係数	logP <sub>ow</sub> = 2.61
融点	166±0.5℃		
沸点	282±0.5℃	生物濃縮性	BCF <sub>ss</sub> =37 (計算値)
蒸気圧	8.0×10 <sup>-15</sup> Pa (25℃)	水溶解度	0.879 mg/L (20℃)

## II. 安全性評価

許容一日摂取量 (ADI)	0.01 mg/kg 体重/日
<p>食品安全委員会は、平成19年8月9日付で、クミルロンのADIを0.01 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を厚生労働省に通知した。</p> <p>なお、この値は、イヌを用いた1年間慢性毒性試験における無毒性量1 mg/kg体重/日を安全係数100で除して設定された。</p>	

## III. 水質汚濁予測濃度（水濁 PEC）

水田使用及び非水田使用のいずれの場面においても使用されるため、それぞれの使用場面ごとに水濁PECが最も高くなる使用方法について表のパラメーターを用いて水濁PECを算出する。

### 1. 水田使用時の水濁 PEC (Tier2)

使用方法		各パラメーターの値	
剤 型	8%粒剤	$I$ : 単回の農薬使用量 (有効成分 g /ha)	2,400
使用場面	水田	$N_{app}$ : 総使用回数 (回)	2
適用作物	稲	$A_p$ : 農薬使用面積 (ha)	50
農薬使用量	3 kg/10a	$fp$ : 施用法による農薬流出係数 (-)	1
総使用回数	2回	止水期間	3
地上防除/航空防除	地 上	$K_r^{ads}_{oc}$ : 土壌吸着係数	593
施 用 法	湛水散布	ドリフト量	—
<b>水質汚濁性試験成績 (mg/L)</b>			
0 日		0.412	
1 日		0.408	
3 日		0.506	
7 日		0.382	
14 日		0.245	

## 2. 非水田使用時の水濁 PEC (Tier1)

使用方法		各パラメーターの値	
剤 型	45%水和剤	$I$ : 単回の農薬使用量 (有効成分 g /ha)	9,000
使用場面	非水田	$N_{app}$ : 総使用回数 (回)	2
適用作物	西洋芝	$A_p$ : 農薬使用面積 (ha)	37.5
農薬使用量	2 L/10a		
総使用回数	2 回		
地上防除/航空防除	地 上		
施 用 法	全面土壌散布		

## 3. 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC <sub>Tier2</sub> (mg/L)
水田使用時	0.00704232 …
非水田使用時	0.00030656 …
うち地表流出寄与分	0.00030551…
うち河川ドリフト寄与分	0.00000105 …
合 計 <sup>1)</sup>	0.00734 … ÷ <u>0.0073 (mg/L)</u>

<sup>1)</sup> 水濁 PEC の値は有効数字 2 桁とし、3 桁目を四捨五入して算出した。

## IV. 総合評価

## 1. 水質汚濁に係る登録保留基準値 (案)

公共用水域の水中における予測濃度 に対する基準値	<b>0.02 mg/L</b>
以下の算出式により登録保留基準値を算出した。 <sup>1)</sup>	
$0.01 \text{ (mg/kg 体重/日)} \times 53.3 \text{ (kg)} \times 0.1 \text{ / } 2 \text{ (L/人/日)} = 0.026\dots \text{ (mg/L)}$	
ADI	平均体重 10%配分 飲料水摂取量

<sup>1)</sup> 登録保留基準値は有効数字 1 桁 (ADI の有効数字桁数) とし、2 桁目を切り捨てて算出した。

<参考> 水質に関する基準値等

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 <sup>1)</sup>	0.3 mg/L
水質要監視項目 <sup>2)</sup>	なし
水質管理目標設定項目 <sup>3)</sup>	なし
ゴルフ場暫定指導指針 <sup>4)</sup>	なし
WHO 飲料水水質ガイドライン <sup>5)</sup>	なし

<sup>1)</sup> 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」(昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号) 第 4 号に基づき設定された基準値。

<sup>2)</sup> 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

<sup>3)</sup> 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された物質に係る目標値。

<sup>4)</sup> 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針の一部改正について」(平成 22 年 9 月 29 日付け環水大土発第 100929001 号環境省水・大気環境局長通知) において設定された指針値。

<sup>5)</sup> Guidelines for Drinking-water Quality (First addendum to 3rd edition)

## 2. リスク評価

水濁  $PEC_{Tier2} = 0.0073 \text{ (mg/L)}$  であり、登録保留基準値  $0.02 \text{ (mg/L)}$  を超えないことを確認した。

(参考) 食品経由の農薬理論最大摂取量と対 ADI 比

農薬理論最大摂取量 (mg/人/日) <sup>1)</sup>	対 ADI 比 (%) <sup>2)</sup>
<b>0.056</b>	<b>11</b>

<sup>1)</sup> 食品経由の農薬理論最大摂取量は、平成 19 年 7 月 3 日開催の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会における食品群毎の基準値案を基に算出した理論最大摂取量を示す。

<sup>2)</sup> 平均体重 53.3 kg で計算